

— 動物臨床医学投稿規定 —

【目的】

規定は「動物臨床医学」の投稿論文の投稿方法を定めたものである。

【投稿内容】

本誌への投稿論文は、原則として未公開のものとし、臨床獣医学および基礎医学に関係あるもので、獣医学、畜産学、動物看護学および医学に貢献しうるための内容とする。

【投稿資格】

投稿者は、本会会員に限るものとする。ただし会員以外の投稿も編集委員会の審査によって受理することができる。

【原稿の採否】

投稿論文の採否は、編集委員会の審査によって決定する。審査には査読制を採用し、論文内容、論文形式、論文の長さ、図表数などを含めて審査する。掲載は原則として原稿採択順とする。尚、査読中の論文で著者が6カ月以内に委員会に再び送って来ない場合は、受理しないことがある。

【投稿区分】

原稿の区分は次の通りとする。

[1] 総説, 特別寄稿

獣医学, 畜産学, 動物看護学および医学, 歯学領域において認められた業績や最近の内外の研究とその動向等を解説したもの。

[2] 原著

論文にオリジナリティーがあり, 獣医臨床およびそれに関連のある学問領域における理論的または技術的な内容のもの。

[3] 症例報告

主として獣医臨床に関する症例報告とする。

[4] 短報, アイデア

獣医臨床に関するオリジナルな研究, 工夫, 仮説, 貴重な症例報告等の速報的なもの。

[5] 技術講座

獣医臨床に関する技術的および検査等について解説したもの。

[6] 資料, 研究施設, 文献等の紹介

獣医臨床およびそれに関連のある薬物, 機器の紹

介, 国内外の研究施設の紹介, 国内外の獣医学, 畜産学, 動物看護学および, 医学, 歯学等における文献のサマリーの紹介。

[7] その他編集委員会において掲載が認められたもの。

【投稿要領】

投稿要領は次のとおりとする。

[1] 投稿原稿は, 上記区分 1, 5, 6 については 1 部, その他は正副合わせて 3 部を提出するものとする (写真, 表はいずれも添付する)。また, E-mail で送付することもできる。

[2] 希望審査分野 (細菌学, 生化学, 臨床病理学, 動物行動学, 免疫学, 内科学, 外科学, 寄生虫病学, 病理学, 薬理学, 生理学, 公衆衛生学, 臨床繁殖学, 毒性学, ウイルス学, エキゾチック, 腫瘍学, 眼科学, 歯科学, 神経学, 産業動物学, 看護学など)

[3] 原稿は, 原則的に和文表記とするが, 英文でも良い。原稿は, A4 版の用紙を用い, 横書きとする。また, 原稿を作成する場合は 1 頁 25 字×24 行 (600 字) とし, 行間を十分あけて横書きに印字すること。

[4] 原稿の枚数 (表題, 図, 表, 写真等すべてを含む)
■ 総説, 特別寄稿: 刷り上がり頁数 5 頁以内 (A4 判用紙 (25 字×24 行) 20 枚以内)

■ 原著: 刷り上がり頁数 5 頁以内 (A4 判用紙 (25 字×24 行) 20 枚以内)

■ 症例報告: 刷り上がり頁数 4 頁以内 (A4 判用紙 (25 字×24 行) 16 枚以内)

■ 短報: 刷り上がり頁数 3 頁以内 (A4 判用紙 (25 字×24 行) 12 枚以内)

■ 技術講座: 刷り上がり頁数 4 頁以内 (A4 判用紙 (25 字×24 行) 16 枚以内)

■ 資料, 研究施設紹介: 刷り上がり頁数 3 頁以内 (A4 判用紙 (25 字×24 行) 12 枚以内)

原著, 症例報告, 短報, 技術講座, 資料, 研究施設紹介, 文献紹介にあたっては図, 表は合計 10 枚以内とする。それ以上の場合は編集委員に委ねる。

[5] 原稿は, 封筒の表面に赤字で「動物臨床医学投稿原稿」と明示したうえで, 原稿の第 1 ページには希望投稿区分希望審査分野, および「新規」(新

規投稿原稿の場合)あるいは「継続」(継続審査原稿の場合)の表示を上段部分に明記する。

次いで、表題、著者名、所属機関およびその所在地(郵便番号を含む)を和文および英文の順に記載する。著者名にはカタカナで振り仮名を付し、著者の所属は研究実施時の所属機関とする。

ただし、第一著者にあつては、所属の移動があつた場合、著者が希望すれば現所属機関名を付記することができる。また、連絡責任者の所属、住所および電話番号(ファックス番号、電子メールアドレス)を記入する。

[6]原著、症例報告、短報にあつては、第2ページに

英文 SUMMARY(いずれも 250 語以内)および Key Words(ABC 順で原著は 5 語以内、症例報告その他は 3 語以内)をダブルスペースで上下左右十分な余白をとり記載する。また、英文校閲のためにその和訳も添付する。第3ページに和文要約(約 400 字以内)および日本語のキーワード(英文 Key Words と同一の順)に記載する。英文の場合は和文要旨と日本語のキーワードを添付すること。

[7]原著にあつては、第4頁以降からは、原則としてはじめに、材料および方法、成績(結果)、考察、引用文献の順に記載する。その他の区分では引用文献以外はその限りではない。

[8]外国人名、国名、地名等は原語のまま第1字を大文字で記述する。ただし国名、地名等は原則としてカタカナ表示する。動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限る。それ以外のものはカタカナ表示する。

動植物、微生物の学名などイタリックで印刷されるべきものにはアンダーラインをつける。

薬品名は原則として一般名または局方名を使用し、カタカナ表示する。機器名等は原則として一般に使われている名称を和文で表示する。本文中に一般名等で記載した薬品、機器等の商品(製品)名および社名、所在地は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる。

[9] 図、表および写真は、まとめて原稿の最後に付し、その挿入位置は原稿の右欄外に明確に記入指定する。

[10] 図・データは、A4 版の白色紙に記載し、写真は原図印刷が可能のように、横は 7.7 cm または 16.0 cm のいずれか、縦は 9.0 cm 以下の大きさとし、白黒・カラーいずれも可とする。

図・写真・表の番号(Fig.1, Table 1 など)は、番号順に A4 版に印刷する。

各図の表題および説明は、和文で別紙にまとめて記載する。

[11]略語の常用的なもの以外は、本文初出のときには完全綴りを併記する。

■主な臨床検査の略語

RBC($\times 10^6/\mu\text{l}$), Hb(g/dl), Ht/PCV(%)
MCV(fl), MCHC(%), MCH(mg/dl), Ret(%)
Plat($\times 10^3/\mu\text{l}$), WBC($/\mu\text{l}$), Band-N($/\mu\text{l}$), Seg-N($/\mu\text{l}$)
Lym($/\mu\text{l}$), Mon($/\mu\text{l}$), Eos($/\mu\text{l}$), Bas($/\mu\text{l}$)
TP(g/dl), Alb(g/dl), Glob(g/dl), ALT(U/l)
AST(U/l), ALP(U/l), GGT(U/l), TBil(mg/dl)
TCho(mg/dl), TG(mg/dl), Glu(mg/dl), Amy(U/l)
Lip(U/l), BUN(mg/dl), Cre(mg/dl)
Ca(mg/dl), P(mg/dl), Na(mmol/l), K(mmol/l)
Cl(mmol/l), Fe($\mu\text{g}/\text{dl}$), TIBC($\mu\text{g}/\text{dl}$), UIBC($\mu\text{g}/\text{dl}$)
LDH(U/l), CPK/CK(U/l), Cortisol($\mu\text{g}/\text{dl}$)
T₄($\mu\text{g}/\text{dl}$), fT₄(pmol/l or ng/dl), CRP(mg/dl)

■数字は算用数字を用い、単位および略語は原則として下記の例に従う。

M, mM, μM , N, %, m, cm, mm, μm , nm,
pm, cm², l, ml, μl , kg, g, mg, μg , ng, hr, min, sec,
msec, rpm, Hz, cpm, dpm, ppm, °C, ca1, Kcal, lux,
LD

[12]引用文献

(1)引用できる文献は、学会誌、専門的学術誌あるいは専門書とし、レフリー制度のない商業雑誌等は原則として引用できない。

(2)引用文献は、本文中最初に引用された順に算用数字を打つ。なお、本文中では、著者名の直後等、引用箇所[1,2-5]のように記載する。

(3)著者名は6名以下の場合全員、7名以上の場合最初の6名までを書き、それに続いて英文では et al. 和文では「他」を加える。

記述は、著者名、論文のタイトル名、誌名、巻、頁、年とする。

単行本の場合は、著者名、記事のタイトル名、書名、訳者名、編者名、版、頁、発行者、発行地、発行年とする。

和文誌名は原則として省略しない、ただし、慣例的に使用されているものはこの限りではない。欧文誌名の省略は Journal Title Abbreviations による。指定のないものは省略しない。

雑誌名称のピリオドは省略する。また誌名はイ

タリック表記とする。

(4) 記載例

■雑誌の場合

1) 高島一昭, 山形静夫, 山根義久: 犬の外眼部炎症性疾患に対する 0.05% ジフルプレドナード点眼薬の治療効果. 動物臨床医学, 20, 83-88 (2011)

2) Dank G, Rassnick KM, Kristal D, Rodriguez CO, Clifford CA, Ward R, et al : Clinical characteristics, treatment, and outcome of dogs with pressured primary hepatic lymphoma : 18 cases (1992-2008). *J Am Vet Med Assoc*, 239, 966-971 (2011)

■単行本の場合

1) Jain NC: Evaluation of anemia and polycythemia. In : *Essentials of Veterinary Hematology*, 159 - 176 , Lea & Febiger, Philadelphia (1993)

2) Gaskell RM, Dawson S, Radford A : Other feline viral diseases, 946. In : Ettinger SJ, ed, *Textbook of Veterinary Internal Medicine : Diseases of the dog and cat*, 7th ed, WB Saunders, Philadelphia (2010)

3) Young KM, MacEwen EG: Canine myeloproliferative disorders. In: Withrow SJ, MacEwen EG, eds, *Clinical Veterinary Oncology*, 398-402, JB Lippincott, Philadelphia (1989)

4) 平松慶博: 逆行性腎盂造影法, 新臨床 X線診断学 大澤忠編, 第 2 版, 399-400, 医学書院, 東京 (1990)

5) Peterson ME 山田隆紹訳: 猫の甲状腺機能亢進症. *The Veterinary Clinic of North America*, 獣医臨床シリーズ, 14 4, 内分泌学に関するシンポジウム, 89-105, 学窓社, 東京 (1985)

[13] 別刷は 50 部について 13,000 円とする。(希望者は投稿時に申し込むものとする)

[14] 本誌の発行は年 4 回とし, 発行日は 3, 6, 9, 12 月とする。

[15] 原稿の送付および投稿に関する照会は下記宛てとする。

〒682-0025 鳥取県倉吉市八屋 214-10
公益財団法人 動物臨床医学研究所内
動物臨床医学会雑誌編集委員会事務局
TEL 0858 (26) 0851, FAX 0858(26) 2158
E-mail : dorinken@apionet.or.jp

[16] 本誌に掲載された論文の著作権は動物臨床医学会に属する。

1 この改正は, 平成 25 年 4 月 1 日から施行する

附則(平成 24 年 3 月 31 日一部改正, 動物臨床医学雑誌編集委員会承認)

附則(平成 24 年 11 月一部改正, 動物臨床医学雑誌編集委員会承認)